

創立144周年

学校便り



進取

令和2年度 No.2

令和2年5月27日発行

阿久根市立阿久根小学校
25学級 児童数451名

子供たちの声が聞こえる喜び～学校の新しい生活様式～

校長 秦 明夫

5月7日から学校が再開され、子供たちの声を聞くことができ本当にうれしく思います。毎朝、私は学校近くの交差点で子供たちとあいさつを交わしています。学校が再開された当初は、まだ眠たそうな表情の子やあいさつに元気がない子が気になりました。外出の自粛で外に出て思うように遊ぶこともできず、生活のリズムがくずれてしまったのかも知れません。しかし現在では、朝のあいさつだけでなく、登校後は一輪車の練習をしたり委員会活動に取り組んだり、本来の元気な姿が戻ってきました。昼休み時間に中庭の遊具で元気いっぱい遊ぶ子供たちの様子を見てみると、ふとこれまでの日常が戻ってきたかのように感じることもさえます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束に見通しがもてない今、感染のリスクをなくす工夫をしながら引き続き教育活動を行っていく必要があります。新型コロナウイルスと上手に付き合っていくため、新しい生活様式という言葉が耳にしますが、学校においても学校の新しい生活様式を意識しながら進めていきたいと思っています。

学校行事やPTA活動については、これまでも感染症対策のため多くを中止いたしました。触れ合いや関わりをもつことは教育の原点であるだけに苦渋の決断でした。そのことをご理解いただいた保護者の皆様には本当に感謝しております。今後も状況を見極めながら安心安全を第一に考え、実施の有無や実施方法等について熟議していきたいと思ひます。

また、子供たちのマスク着用についてもご協力ありがとうございます。マスク着用で授業を受けることが、今や学校生活の新しいスタイルとなりました。ただ熱中症等が心配されますので、体育の授業等では外すなど、状況に応じて健康面の配慮をまいります。同時に水分補給が大切になってきますので、水筒持参へのご協力もお願いします。

このほか昼休みの図書室の利用を曜日ごとに分け、三密を防ぐなど様々な工夫をしているところです。子供たちにとって窮屈な思いがあると思いますが、新しい生活様式を心がけていくことで「子供たちの声が聞こえる学校」を継続できると考えます。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



マスクの寄贈～感謝の気持ちを手紙で届きました～

4月、市内の小学生に手作りマスクの寄贈がありました。市内で飲食店を経営される甲斐さんが手作りされた物でした。

子供たちは、さっそく甲斐さんにお礼の手紙を書きました。子供たちの手紙は、心を打たれるものばかりでした。また、職員には、牟田建設の牟田社長さんからマスクをいただきました。

～甲斐美智子さんへ～

コロナウイルスの影響でマスク不足になっている中、手作りマスクを作ってくださいありがとうございます。低学年・高学年でマスクの大きさを工夫したり阿久根市の小学生分、約1000枚を十日間ほどで作り上げてすごい人だなと思いました。私は、将来甲斐美智子さんのような優しい人になりたいと思ひます。

～6年生のお礼の手紙から～

